



**2026 AUTOBACS SUPER GT
Round 7 AUTOPOLIS GT 3Hours RACE**

OCTOBER.17 - 18 Qualify : 19th / Race : 22th

苦境のなかチーム一丸で追い上げるもペナルティで 22 位に



スポーツランド SUGO で行われた第 6 戦では、給油リストラクターの影響を受け苦戦を強いられ、悔しい無得点となった D'station Racing。タイトル争いのために少しでもポイントを重ねたいところだが、迎えた第 7 戦オートポリスは、例年苦戦を強いられるコースだ。

とはいえ、チーム一丸となって戦えば状況も打開できるはず。そんな思いをもって、チームは 10 月 17 日（土）に始まった公式練習に臨んだ。

快晴に恵まれ、気温 21 度／路面温度 23 度というコンディションで始まった午前 10 時 30 分からの公式練習では、D'station Vantage GT3 はまずは藤井誠暢からステアリングを握りコースイン。ストップ車両による赤旗中断を経てチャーリ・ファグに交代しながら周回を重ねたが、スピードとしてはやはり少々苦しい。1 分 45 秒 573 というベストタイムで 15 番手という位置で終えた。

チームは苦境を開開しようと、気温 23 度／路面温度 29 度というコンディションのもと午後 2 時 30 分から行われた公式予選に向け、セットアップ改善やタイヤ選択に取り組んでいったが、Q2 進出を目指し臨んだ Q1 の B 組では、藤井をアタッカーに据えるも、1 分 44 秒 860 というベストタイムで僅差の 10 番手に。Q1 突破はならず、19 番手からレースを戦うことになった。

D'station Vantage GT3 にとっては苦境を象徴するかのような位置からのスタートとなった 10 月 18 日（日）からの決勝レースは、気温 25 度／路面温度 33 度というコンディションのもと午後 1 時 10 分にスタートした。

3 時間というレース距離で、2 回のピットインが必要な決勝に向け、D'station Vantage GT3 はスタートドライバーにファグを据えスタートを切った。混戦のなか 8 周目には #6 フェラーリをとらえると、少しずつポジションアップ。13 周目には 14 番手まで浮上した。

2 回のピット作業のうち、チームは 1 回目のタイミングをうかがっていたが、22 周目に 12 番手だった #31 LC500h がクラッシュする。この機を逃さずチームはファグを呼び戻すと、直後にセーフティカーが導入される。これで D'station Vantage GT3 は大きくポジションを上げることになり、28 周目の再開後コースに戻ったファグはピットイン組の首位を争うことに。31 周目には #5 86MC をかわし、ピットイン組のトップに立った。

ドライバーとチームの好判断により、予選までの苦境を跳ね返し上位進出が見えはじめたが、レース中盤の 47 周目、思わぬ展開となった。GT300 クラスの上位を争っていた #52 GR Supra が 3 コーナー立ち上がりでバトルの中クラッシュ。ふた

たびセーフティカーが導入されてしまった。この時点で 2 回目のストップを終えていたのは 1 台ほどで、展開としては上位陣の顔ぶれは変わらなかったものの、セーフティカーにより隊列の間隔が縮められてしまった。

今季タイトルを争っていた D'station Vantage GT3 は、給油リストラクターでピット時間が長くなっていた。1 回目のピットではそのハンデをはね除けていたが、セーフティカー解除後の 58 周に行ったピットインでは、隊列の間隔が縮められた影響で、給油時間が大きく順位に関わってしまった。藤井に交代しコースに復帰するも、ポジションは 11 ～ 12 番手という位置となった。

それでも藤井は諦めることなく、#7 フェラーリと丁々発止のバトルを展開。ピックアップに苦しむなか、10 位まで追い上げフィニッシュした。レース直後、1 台にペナルティが出たため、順位は 9 位になったかと思われた。

しかしレース後、D'station Vantage GT3 にも 2 周減算のペナルティが出されてしまい、最終的な順位は 22 位となった。苦闘の末入賞を果たしたかと思われたものの、まさかの無得点となった。

2026 年シーズンは残すは 11 月 6 ～ 8 日の第 3 戦／第 8 戦まで。D'station Racing は諦めることなく、今季最後の戦いに挑んでいく。



COMMENTS :



Team Owner : Satoshi HOSHINO

この週末は予選日から苦しく、Q1を突破することができませんでした。その点は予想外だったのですが、チーム全員でなんとかポイントを探ろうと臨んだ決勝レースでは、セーフティカーが良いタイミングで入り、チームとドライバーの判断でピットインしたことで、その時点でのトップ争いに加わることができました。残念ながら2回目のセー

フティカーでポジションを下げることになってしまいました。ポイント圏内で戦うことができました。ペナルティは悔しいところではありますが、そこまではチーム一丸となつての戦いができたのではないかと考えています。チャンピオン争いもまだ混沌としていますし、残り2戦も全力で戦っていききたいですね。



Director : Kazuhiro SASAKI

このオートポリスは例年あまり良い印象がなくて、昨年も大いに苦しんだレースだったのですが、今年も土曜はすごく苦戦していて、藤井選手でもQ2に進出できない状態だったので、レースも苦しい戦いになるかと思っていました。しかし、決勝ではチャーリー選手が序盤から追い上げてくれましたし、セーフティカーでのピットインも良い仕

事ができたと思っています。そこまでは完璧なレースにできていたんですけどね。レース後半以降は、ペナルティも含め流れを失ってしまったのは悔しいところです。でも藤井選手も諦めない戦いをみせてくれましたし、ドライバー、チームの頑張りは素晴らしいかったです。まだ残りは2戦ありますし、まだまだしぶとくいきたいと思っています。



Supervisor : Tetsuya TANAKA

決勝レースではチャーリー選手が序盤から頑張ってくれて、セーフティカーが入ることになりましたが、チーム全員で事前に打ち合わせして、いろいろなシミュレーションをしていたので、良いタイミングでピットに戻すことができました。そのタイミングは良かったのですが、2回目のセーフティカーではうまくいきませんでしたね。とはいえ、

何も無い状態でのレースに比べれば、チームとしてやることをしっかりやることはできたと思っています。結果的にはペナルティもあり22位となってしまいましたが、終盤藤井選手も頑張ってくれましたし、1ポイントでも多く獲得しようという意気込みを示してくれました。次に繋がるレースになったのではないかと考えています。



Driver : Tomonobu FUJII

このレースウィークは走り出しからあまりペースが良くなく、公式予選ではQ1を突破できない結果となってしまいました。レースも苦しいペースではあったものの、セーフティカーが出そうなタイミングでピットに入ることができ、大きく順位を上げることができました。ただ、2回目のセーフティカーによりギャップが縮まってしまい、給

油リストラクターによるピット時間もあり、レース終盤はピックアップもあって苦しい展開となりましたが、9位でフィニッシュすることができました。ペナルティで22位で無得点となってしまい、チャンピオン争いは苦しくなりましたが、モビリティリゾートもてぎでの残り2戦、もう一度頑張りたいと思います。



Driver : Charlie Fagg

ペナルティで結果としては残念なものになったけど、内容としては本当に素晴らしいレースになっていたと思う。特に序盤の2スティントは自分としても大満足だよ。トップに立てたことは素晴らしいかつ、セーフティカーが入る直前にピットに呼び戻してくれたチームの判断は最高だった。中盤以降レースをリードすることができたけど、10

位でゴールすることになったのは悔しかったね。厳しく振り返ればもっとやりようがあったかもしれないけど、2回目のストップで時間がかかったのは痛かった。僕自身は2時間も懸命に走ってきたのにね。それでもチームとして力強い戦いはみせられたし、まだ2戦あるから、何か大きな結果を残すことができるはずだと期待しているよ。

